

石
川
漢
詩

石川漢詩

病牀三首

病牀三首

病院の定期検診にて胃に異状ありとの御託宣、それより舊友花岡英彌君の千葉の病院にて手術することとなれり。
爛漫の春に負きて病牀二週間、得難き體験をなせり。

○平成十四年三月二十三日作

其の一

早興扶内雨餘晨

早に興き内に扶けらる雨餘の晨

遠就華陀治病身

遠く華陀に就いて病身を治む

羨見櫻花總州路

羨み見る櫻花總州の路

乃公從此負芳春

乃公此より芳春に負く

〔眞〕

雨餘＝雨降りのあと。雨上がり。

内＝妻。

華陀＝後漢末の名醫。癱醉を發明し、全身癱醉の手術を行つたといふ。外科醫をたとへた。

總州＝今の中葉縣をいふ。

乃公＝われ、わが輩。

其の二

養痾獨房臨縣城
高樓櫛比路縱橫
病中慰眼有何物
三面玻璃窗下櫻

〔陽〕

痾を養ふ獨房は縣城に臨む
高樓櫛比し路縱橫
病中眼を慰むる何物か有る
三面玻璃の窗下の櫻

養痾＝病氣を治療する。

櫛比＝くしの歯のやうに密に並ぶ。

破璃＝玉の名、水晶。ここはガラス窗をいふ。

其の三

燦燦春光方滿室
瓶花馥郁在牀臺
華陀帶笑迎吾處
小玉懃懃診脈來

燦々たる春光方に室に満つ
瓶花馥郁牀臺に在り
華陀笑を帶びて吾を迎ふる處
小玉懃懃に脈を診り来る

〔灰〕

小玉＝楊貴妃の侍女の名。看護婦をたとへた。